様式第２号(第７条関係)

会 議 結 果 報 告 書

令和８年２月 24 日

会議の名称	令和７年度 第２回舞鶴市総合計画審議会
種別	■附 属 機 関　　□懇 話 会 等
開催日時	令和８年２月 16 日（月）14 時 00 分 ～16 時 00 分
開催場所	舞鶴赤れんがパーク　市政記念館ホール
出席者	別紙のとおり
議題	１．開会 ２．市長あいさつ ３．委員紹介 ４．議事 （１）次期総合計画の進捗報告について （２）意見交換
公開の区分	■公　　開
	□部分公開　［理由］
傍聴者数	４名
審議結果 及び 主な意見等	別紙の議事録のとおり
会議録の作成様式	□詳　細　　■要　約
備考	

担当課	舞鶴市政策推進部企画政策課 TEL　(0773)　66　－　1042

舞鶴市総合計画審議会　委員名簿（敬称略）

委嘱期間：令和5年4月1日～令和9年3月31日

		区分	所属	役職	氏名	出欠
1	委員長	学識経験者	舞鶴工業高等専門学校	校長	林　康裕	出席
2		学識経験者	京都職業能力開発短期大学校	校長	中部　主敬	出席
3	副委員長	経済	舞鶴商工会議所	会頭	嵯峨根　仁史	出席
4		観光	京都府北部地域連携都市圏振興社	舞鶴地域本部長	植本　浩明	出席
5		住民（地域）	舞鶴自治連・区長連協議会	会長	福本　清	出席
6		住民（若者）	舞鶴青年会議所	理事長	坂根　一彰	出席
7		住民（女性）	ＮＰＯ法人まいづるネットワークの会	副理事長	上野　和美	出席
8		住民（まち）	ＮＰＯ法人まちづくりサポートクラブ	副代表理事	嵯峨根　俊文	出席
9		福祉	舞鶴市社会福祉協議会	会長	荻野　隆三	出席
10		福祉	社会福祉法人大樹会	理事・施設長	大橋　裕子	出席
11		子育て	舞鶴市ＰＴＡ連絡協議会	会長	永木　智則	出席
12		教育機関	舞鶴医療センター附属看護学校	教員	山口　綾	出席
13		スポーツ	舞鶴市スポーツ協会	会長	渡辺　弘	出席
14		文化	舞鶴市文化協会	副会長	田中　美香子	出席
15		環境	まいづる環境市民会議	顧問	尾上　亮介	出席
16		金融	（株）京都銀行東舞鶴支店	東舞鶴支店長	川井　啓	出席
17		金融	京都北都信用金庫	東舞鶴中央支店長代理	左近　美絵	出席
18		交通	京都交通株式会社	舞鶴営業所所長	福井　尚朋	出席
19		行政	近畿財務局舞鶴出張所	所長	田中　陽	出席
20		言論	ＦＭまいづる	ジェネラルマネージャー	時岡　浩二	出席

委員　20名　うち出席者　20名

区分	所属	役職	氏名	出欠
オブザーバー	京都府中丹広域振興局	地域連携・振興部 企画・連携推進課長	福井　あゆみ	出席
オブザーバー	京都府港湾局	港湾企画課長	松本　義明	欠席

令和７年度第２回舞鶴市総合計画審議会
議事録（概要）

開催日時：令和８年２月16日（月）14時00分～16時00分

開催場所：舞鶴赤れんがパーク　市政記念館ホール

出席者：別紙委員名簿のとおり

事務局：舞鶴市政策推進部政策推進室企画政策課

【次　第】
１．開会

２．市長あいさつ（要旨）
- 本日はご多忙の中、総合計画審議会にご出席いただき感謝申し上げる。委員の皆様には、これまでから市の最上位計画である総合計画に対し、奇譚のない意見をいただいてきたところ。
- 現行の第７次総合計画が残り１年となる中、次期総合計画の策定を進めている。今回は従来の計画期間にとらわれず、団塊ジュニア世代が高齢者（65歳以上）となる「2040年」を見据えた計画とする。
- 2040年には既存の社会システムや考え方では立ち行かなくなることが予測される。これを決してネガティブに捉えるのではなく、「だからこそ新しい地方都市のあり方を考えていくのだ」という発想の転換が必要である。
- 策定にあたっては、従来の行政主導ではなく、市民と共に作り上げることを重視した。「#みんなでつくる舞鶴2040」プロジェクトでは、SNSやワークショップ等を通じて約2,000名の市民から意見をいただいた。私自身、市民一人ひとりの「まちへの愛着」や「誇り」、「人とのつながり」を強く感じた。
- いただいた市民の声を踏まえ、本日は「基本構想案の骨子」を提示する。これはあくまで「案」の段階であるため、着実に良い計画とするためにも、委員の皆様からは忌憚のない、厳しいご意見も含めて賜りたい。

３．委員紹介

４．議事　（舞鶴工業高等専門学校　校長　林　康裕委員長による進行）
（１）次期総合計画の進捗報告について
市長から説明
（２）意見交換
<u>意見交換の内容</u>
《舞鶴工業高等専門学校　林委員長》
- 次期総合計画策定において、多くの人に意見を聞いて取り入れるプロセスは素晴らしい。一方、多様な意見は、結果的に何を目指すのか、どこに重点を置くのか分かりにくくなる。厳しい現実もきれいな言葉の中に隠れてしまっている気がする。例えば、人口減少に向き合うにはコンパクトシティにせ

ざるを得ないというメッセージを入れなくてはいけないのではないか。また、産業面では尖った産業の育成や、地元に定着するための収入があり暮らしができる環境、再教育を含めた教育が大事だと思う。こういったメッセージを入れていく考えはないか。

《市長》

- 総合計画は、教育から医療、産業、福祉まで全てを網羅するため、何かに特化することは難しい面がある。ただ、尖った施策は実行していく必要があると考えている。昨日の「公共施設マネジメントシンポジウム2026」でも、120の公共施設を今のまま残すのは1200億円かかり、維持をしていくことは到底無理だと話したところ。また、小中学校の数についても、今のままでいいのかという議論をしている。行政として矢面に立ち、市民に厳しい現実を伝え、向き合っていく必要がある。
- コンパクトシティについては、目指すべきまちの姿①にそのエッセンスを入れている。核となる中心市街地に機能を集約させつつ、周辺部とのバランスも考えていく。立地適正化計画や都市計画上でメッセージは出しているが、一から作る次期総合計画においては、ぜひ委員の皆さんでも議論していただきたい。

《京都府北部地域連携都市圏振興社　植本委員》

- 多くの人の意見を聞いてみんなで参画して作るという意識付けは非常に良い。キーワードの「人・愛・誇り」も非常に良い。愛着と誇りはまちづくりにおいて非常に大切。観光においても、舞鶴のDNAとしての「引き揚げの歴史」による「おもてなしの心」を大切にしたい。それが都市計画やサイン計画にも活きればと思う。
- 「未来に希望がもてる活力あるまち」は、他のまちでも言い換えができるため、それに加えて、舞鶴のアイデンティティを表すキャッチコピーがあると、もっと分かりやすくなるのではないか。

《舞鶴工業高等専門学校　林委員長》

- キャッチコピーは、全体像が決まったら、ふさわしいものを決めていく形になると思う。

《NPO法人まいづるネットワークの会　上野委員》

- 「若者が表に出る舞台」を大事にしてあげたい。冬季オリンピックに出場する若い選手は、周りのサポートに感謝を口にしている。今の若者は周りのサポートをしっかり考えており、若者が生き生きと暮らせるまちにしたい。
- また、フィリピンでは英語教育が進んでいるが、舞鶴の英語教育を強化して、他府県からも「舞鶴の英語はすごいらしい」と留学に来るくらい特化してはどうか。起業するにも英

語は必須。
- 引き揚げの歴史は「しんどい」や「暗い」といったイメージではなく、当時の女性たちが自分たちも食べるものがない時代に、お茶を淹れたりふかし芋を配ったりした温かいエピソードを前面に出した「おもてなしの心」を伝えていくべき。

《舞鶴自治連・区長連協議会　福本委員》
- 自治会長・区長のつどいでお話をいただいた福知山公立大学の杉岡先生によると、高校卒業後のUターン率が舞鶴は非常に悪い。福知山は６割戻っているが、舞鶴は２割。産業や教育などUターンできる基盤の整備が必要。また、こどもの地域愛・郷土愛を育て、一旦出ても戻りたいと思える意識付けが重要。
- 自治会は疲弊しており、脱退する自治会も出てきている。人とのつながりが希薄になっており、自治会のあり方についても将来展望に入れてほしい。

《市長》
- 杉岡先生にも伝えたが、舞鶴の社会増減には、教育隊や海上保安学校など市外から来て出ていく人も含まれた数字。そういった数字を抜いて見ると、舞鶴は７割から８割。近隣市では、綾部が６割、福知山が８割以上。舞鶴が飛び抜けて低いということはない。
  ※「2020年の25歳から29歳の合計」を「2005年の10歳から14歳の合計」で割った割合。
- 自治連とこれまで議論しているが、地域コミュニティのあり方についての計画を作る段階にある。自治会は任意組織だが、行政もしっかり関わり、昭和の時代から残っている役割を簡略化しつつ、人が減ってもコミュニティが強いまちにしていく。回覧板、ごみ当番など市役所が当たり前に自治会にお願いしていることも棚卸しが必要だと考えている。

《舞鶴市社会福祉協議会　荻野委員》
- 「人との温かいつながり」や「郷土愛」を感じながらまちづくりに参画することは重要だと思う。
- 舞鶴市地域福祉計画では、「みんなが役割を持ち、つながり支えあう」とあり、支える側と支えられる側にこだわらないもの。65歳以上で元気に働いている高齢者もたくさんおり、今後到来する肩車社会の中で、高齢者の力をどのように盛り込んでいくのかも考えるべきではないか。舞鶴市のボランティア組織は、５７団体１８００人を数える。西高は１５０人、東高は４０名以上と高校生も多く所属しているが、その多くは高齢者。また、社協では、地域の高齢者の見守りやごみ出しの代行など行っている地域支え合いサポーターという仕組みがあるが、この中にも多くの高齢者がいる。地域づくりには、高齢者の力が発揮できる仕組みが必要。

- お祭りは、地域の愛着を育むと考えている。現在、お祭りは担い手不足で継続できなくなっているが、人と人のつながりが生まれる場を大事にしたい。

《京都銀行東舞鶴支店　川井委員》
- 幸福度調査で主観が低いという結果が出ているが、他市でも同様の結果が出るのか。

《事務局》
- 人口の多い市では主観と客観が近づく傾向が見られるが、地方都市では主観が低めに出るケースも見られる。今回の舞鶴の結果からは、舞鶴市民の舞鶴への自信のなさが出た結果とも見てとれる。

《京都銀行東舞鶴支店　川井委員》
- 幸福度は、これからの舞鶴を考える上での大きな指針だと思う。外から来た者としては舞鶴はすごくいい町だと思うが、地元の人は「舞鶴なんて」と言いがち。舞鶴に愛着や誇りを持つことは大事にしていかなければならない考え方だと思う。
- 社会減であるということは、市外に舞鶴に関与した方がたくさんいるということ。「Team舞鶴」として、舞鶴を出た人にも教育などに関わってもらうのも手。
- 産業では、どの業種を尖らせるのかが重要。造船や溶接関係など強い分野を伸ばしていく必要がある。そうすると、理系教育も大事になってくる。

《市長》
- 幸福度のギャップについては、親の世代が子供に「舞鶴は何もないから」と言って聞かせてきたことも一因かもしれない。だからこそ「愛」や「誇り」をキーワードに入れたかった。また、多くの自治体にある「市民憲章」が舞鶴にはなく、今回の計画に合わせて市民と一緒に作りたいと考えている。
- 産業については、造船、防衛産業、港湾ロジスティクスなど舞鶴に集積する産業は国でも重点施策に位置づけられており、重点的な産業を圧倒的に伸ばしていく。また、先般誘致したAIデータセンターなどもあり、AIの分野も同様に伸ばしていきたい。
- 各論を個別計画ではなく総合計画に入れるのは難しい部分があるが、ご意見は反映していきたい。

《京都交通　福井委員》
- 京都交通では、65歳以上が多く働いている。
- 東西のまちがある舞鶴では都市交通が維持されている。綾部や福知山では一極集中のため、中心市街地と地方との間での利用がほとんど。

- 目指すべきまちの姿①において、コンパクトシティ化は必要と考える。2040年に向けていち早く自動運転も取り入れたい。京都府北部のウーブン・シティを目指してほしい。

《舞鶴市スポーツ協会　渡辺委員》
- 中学の部活の地域移行を、「大変だ」ではなく「まちづくり」の視点に変えたい。指導者と保護者、子供たちが繋がる場や教えられた子が将来地元に恩返ししたいと思えるような場にしたい。

《近畿財務局舞鶴出張所　田中委員》
- 舞鶴はポテンシャルが高いのに、赤れんが倉庫という唯一無二の資産があるがゆえに努力や汗をかくところが少なく、市外出身の目線では「大仏商法」となっている部分が見られる。赤れんがの施設はまだ未利用のものがあるが、ほしのリゾートによる奈良刑務所の活用の事例などのように、もっと稼げる資産に変えていく発想が必要。また、高単価なホテルを誘致するなど、若者が働きたくなる場所を作ってほしい。

《舞鶴工業高等専門学校　林委員長》
- 京都と奈良はどちらも古いまちだが、その違いとして、京都はずっと変化し活性化してきた。京都では外から来た新しい人が活性化を担ってきた。舞鶴も「変化」を取り入れて、その変化が見える形にしてほしい。

《舞鶴文化協会　田中委員》
- 幸福度・生活満足度のグラフで、文化・芸術が高かったことは嬉しいが、どういったことが評価されたのか。
- FMまいづる出演高校生の「KARAYABの活動に大人のバックアップがほしい」との意見があったが、文化協会として協力していきたい。

《市長》
- 文化・芸術が高い要因は分析出来ていないが、エンタメの力は重要だと考えている。この考えから朗読劇を誘致した。また、プレイバックフェスやまいづる親善大使などを通して、様々な方に関わっていただくことは、舞鶴への誇りにつながっていくことだと考えている。
- 文化活動については、第２次舞鶴市文化進行基本計画の中で考えているが、今後の舞鶴市総合文化会館のあり方含め、総合計画にあわせて考えていく。
- 「まいかつ」においても、文化団体６３団体に協力いただき、感謝。

《舞鶴医療センター附属看護学校　山口委員》
- 看護学校の学生は「看護師になる」という明確な目標を持って入学しており、半数以上が舞鶴市内あるいは京都府北部に

就職しているが、その背景にはカリキュラムの中で地域の訪問看護ステーションや老人保健施設などに行き、「舞鶴で働く自分」を具体的にイメージできていることがあるのではないかと考えている。FMまいづる出演高校生のヒアリングで「学生の活動範囲は学校内で完結しがちで、地域への愛着やUターン志向が薄れる原因になっている」との記載があったが、中高生の職場体験などにおいても、単に仕事内容を知るだけでなく、「舞鶴で働くならどんな姿か」をイメージできる機会になれば、地元に残りたいという思いにつながるのではないかと考える。

- SNSの普及もあり、今の若者にとってライブ活動などが身近な存在になっている。しかし、舞鶴市内でバンド活動をしていても発表する場がなく、福知山市や他市へ行って活動しているケースが多い。自分たちの住んでいる場所で、知っている人に聞いてもらえるような「表現の場」が市内にあると良いのではないか。

《社会福祉法人大樹会　大橋委員》

- 自身の子どもが小学生の頃は、自衛隊や海上保安庁の方は家族連れで来ていたが、舞鶴の教育制度が良くないとの噂が流れて以降、単身赴任者が増えた。実際には何年も滞在する方もいるため、舞鶴の教育制度や魅力をしっかりとアピールすることで、家族での転入や定着が増えるのではないか。
- 大雪の際、国道は除雪されていても、一本入った生活道路、特に高齢者が多い地域は雪かきができず、通行できない状況がある。自身の職場の職員も、自宅前の道が空いていないために出勤できないケースがあった。小さな町内会や自治会単位でも、住民が協力して除雪車を頼めるような仕組みなど、安心して住み続けられるような共助の体制づくりをお願いしたい。

《まちづくりサポートクラブ　嵯峨根委員》

- 本日の資料作成にも「NotebookLM」というテクノロジーが活用されており、感銘を受けた。2040年の世界を自身もイメージ出来なかったため、自律型ソフトウェアのAIエージェント「Manus　AI」を使ったところ、AIが出した結論は、「2040年の舞鶴は人口減少と超高齢化という避けられない課題に直面するが、これを技術革新導入の絶好の機会と捉え、テクノロジーによって市民のウェルビーイング（幸福度）を最大化するスマートコンパクトシティを目指すべきである。」だった。最先端の活用は将来必要であり、舞鶴市もそのような取組を進める部署が必要ではないか。最先端のテクノロジーを活用することで、人口減少による労働力不足や生活の不便さを補い、改善できる可能性がある。日本の多くの地方都市が同様の課題を抱える中、舞鶴市がいち早く取り組み、地方都市活性化のモデルケースとなる絶好のチャンスであるため、早急に検討し手を打っていただきたい。

《市長》

- 人口減少は全ての地方都市が抱える課題であり、AI等のテクノロジー活用は不可欠であるとの認識で一致している。市役所ではPCの一斉更新をし、生成AI（NotebookLM等）の導入を進め、職員の働き方も大きく変革している。
- AIの利便性を広く民間へ波及させることが重要である。AIデータセンターの誘致を核に、単なる「箱モノ」に誘致ではなく、福祉や教育分野でもテクノロジーを活用できるベンチャー企業の誘致や高専・ポリテクカレッジ等の人材活用を進めたい。
- 自動運転の実証実験においても、いち早く自家用車で実験できる環境を整備し、日本の地方都市が抱える移動の課題を舞鶴から解決するモデルケースを目指す。
- 現役の海上自衛隊員から、舞鶴は子育てが充実しているので家族揃って赴任するまちになっていると聞き、徐々に自衛隊にも評価されてきている。
- 除雪・除草は永遠の課題であり、現在は除雪機貸出による「共助」で対応しているが、将来的にはスマートシティの一環として、熱伝導素材のアスファルト等、「そもそも積雪しないインフラ」を整備するなど、テクノロジーによる抜本的な解決も視野に入れたまちづくりが必要であると考えている。

《舞鶴青年会議所　坂根委員》

- 15年後の2040年には、現在の18歳が33歳となり社会の中心となる。その世代が活躍できるよう、今から手を打つ必要があると考える。目指すべきまちの姿②「こどもの未来と郷土愛を共に育むまち」に関連し、「郷土愛」を育む場は、現在、具体的にどのような場所や機会があるか。

《市長》

- 地域によって異なるが、例えば吉原地区の重要伝統的建造物群保存地区指定に向けた盛り上がりや地域の祭りなどは、郷土愛を醸成する重要な場である。また、赤れんが倉庫群においては、昨年「近代化遺産保存センター」を設置し、子どもから大人まで参加できるワークショップを開催しており、こうした活動も郷土愛を感じてもらう機会となっている。
- 場所だけでなく「食育」も重要視している。今年度から学校給食の魚を100%舞鶴産にしており、今後は野菜なども地元産の使用を増やしたい。地元の食を通じて郷土への愛着を育んでいく。
- 大人が「舞鶴には何もない」と言って子どもを送り出すのではなく、「舞鶴にはこんな素晴らしいものがある」と自信を持って言える環境を作ることが、結果として郷土愛の醸成につながると考えている。

《舞鶴青年会議所　坂根委員》

- 郷土愛を持って戻ってきたUターン者が、自治会や地域コミュニティを活性化させる鍵となる。舞鶴青年会議所としても、子どもたちにスポットを当て、「帰ってきたい」と思える場所づくりや郷土愛を育む活動に注力しており、今後も協力していきたい。
- 「#みんなでつくる舞鶴2040」のロゴマークのデザインやAIを活用して作成された資料から、計画に込められた意図や想いが強く感じられた。

《まいづる環境市民会議　尾上委員》

- 基本構想骨子案全体を通して、環境に対する視点があまり感じられない。子どもたちが故郷への思いを馳せる際、舞鶴の豊かな自然は非常に重要な要素であり、環境問題への取り組みや、動物・植物・海といった自然環境全体を守る視点を計画の文章として明記してほしい。
- 農業は単に稼ぐだけでなく、棚田などの美しい風景を作り出している。スマート農業等で産業として維持することも重要だが、農業が作り出す景観も「環境の一部」として位置づけ、守っていく視点を加えてほしい。

《市長》

- 地域幸福度（Well-Being）アンケートの結果においても、「自然環境」や「自然の恵み」に対する市民の主観的評価は非常に高い。また、全ての世代が舞鶴の良さとして「豊かな自然」を挙げており、市民にとって極めて重要な要素であると認識している。
- いただいたご意見を踏まえ、単なる廃棄物処理などの生活環境としての側面だけでなく、自然保護や美しい景観を守るといった視点も含め、「環境」や「自然」の重要性がより明確に見えるような計画のあり方を検討し、反映させていきたい。

《京都職業能力開発短期大学校　中部委員》

- 先ほど英語教育を強化すべきという意見があったが、文化の究極の基盤は「日本語（国語）」にあると考える。マンガ等の日本文化が世界に広まっているように、舞鶴の文化や引揚の歴史を後世や世界に伝えていくためには、まずは自分たちが日本語でしっかりと表現・発信できることが重要であり、日本語教育の視点も計画に入れてほしい。
- 個人的な意見として、舞鶴市のゴミ分別の複雑さが気になっている。大阪府茨木市等都市部と比べても非常に細かく、子育て世代や外国人にとって生活時間を圧迫する要因となっている。また、2040年には埋め立て処分をなくすことを目指し、単純な埋め立てではなく、資源回収や技術活用によるごみ処理のあり方を検討すべきではないか。

《FMまいづる　時岡委員》

- ワークショップや高校生へのヒアリングなど、市民の生の声を丁寧に聞き取って作成されたプロセスは素晴らしい。一方、多くの意見を集約することで、結果として内容が総花的・抽象的になり、どこのまちにでも当てはまるような計画になってしまう懸念がある。
- 舞鶴は、物流・人・産業などの「動き」がダイナミックであるのが特徴である。変化の激しい時代において、固定的な目標だけでなく、時代の変化に合わせて柔軟に計画自体が変わっていけるような視点を盛り込んでほしい。
- 15年という期間で確実に成果が出るのは「教育」である。10年先ではなく、20～30年先に舞鶴に貢献する人材を育てるという長期的な視点を持つべきである。
- 文化・芸術活動への支援もしっかりと行うことが、まちの魅力向上につながる。

《舞鶴商工会議所　嵯峨根委員》

- 素晴らしい計画案であるが、経済の代表としての立場から言えば、全ての目標や課題の解決策は「経済」にあると考えている。
- 30年以内に南海トラフ地震等が発生し、東京・大阪・名古屋等太平洋側の都市機能が麻痺した際、日本を動かすのは日本海側である。災害の少ない舞鶴こそがその中心となるべきである。企業誘致や大学との連携を進め、将来100万都市を目指すくらいの極端な議論や大きな気概を持って取り組んでほしい。
- 山積する課題を一度に全て解決するのは不可能である。市長や市として優先順位を決めて、できるところから解決していくべきである。経済が発展し税収（財源）が確保できれば、「これをするにはこれを削る」といった議論はなくなり、市民の要望を実現できるようになる。それが商工会議所の役割でもある。